



SPORTS JAPAN PROJECT

スポーツ振興くじ (toto・BIG) の運営・販売元である独立行政法人日本スポーツ振興センターは、その収益によってアスリートの育成や身近な地域のスポーツ活動・施設などに対して多くの助成を行っています。

第8回 嬭恋高原キャベツマラソン (嬭恋村)

2008年からスタートしたマラソン大会。当初は浅間山麓をコースとしていたが、現在はバラギ高原に移し、バラギ湖周辺やキャベツ畑が一面に広がる「つまどいパノラマライン北ルート」を走る。アップダウンの激しいコースは、難易度が高いと有名。3年前よりスポーツ振興くじの助成を受け、イベント運営に役立てている。種目はハーフ、10キロ、5.4キロ、2キロ小学生、2キロ親子ペアなど。



企画・制作 / 上毛新聞社 東京支社

Love Sports GUNMA vol.5

群馬県内で助成を受けたスポーツクラブや施設を、全9回でご紹介。今回は嬭恋で行われたマラソン大会取材しました。



松村幸弘・幸紀さん (渋川市)
小学校最後の夏休みに、子どもと一緒に走ることができて良い思い出です。

有賀さん一家 (前橋市)
家族7人で参加しました。最後の上り坂が大変でしたが、高原の風を感じながらみんなで気持ちよく走れました。



世代を超えてスポーツを楽しむ!

■サービスを充実し、嬭恋村の特色を出す

久保 自治体が行うイベントのため、健全な財務体制で運営することを心がけています。toto・BIGの助成金を大会エントリーやタイムの計測業務、印刷物の制作に充てることで、限られた自治体の予算でも生キャベツ食べ放題やキャベツプレゼントといった参加者へのサービスを充実させることが可能になりました。初年度2,200人だった参加者は、約3,700人に増えました。リピーターも多く、県内はもちろん、東北や九州からも参加してくれています。高難度と評判のコースですが、高原に広がるキャベツ畑と浅間山という嬭恋村ならではの風景も楽しんでほしいですね。



嬭恋村役場観光商工課
久保 宗之(くぼ・むねゆき)さん

キャベツマラソン以外にも四季を通して行われるイベントの企画運営や「日本ロマンチック街道」の事務局業務などにも携わる。

■高原の絶景と風を味方に完走

戸塚裕大さん (千葉県)
アップダウンを走るのが好きで、ハーフに参加。タイムはベストには及びませんでしたが、のどかな風景の中でのランニングは爽快でした。



**高橋真衣子さん
角田友紀さん (中之条町)**
いろいろな大会に出るのが楽しみです。このコースは難度が高いけれど、それだけに達成感があります。



光澤理沙さん (栃木県)
まさかと思いましたが、3回目の参加で5.4キロ女子3位と初めての入賞! 難しいけど、やりがいのあるコースです。

★もっと助成活動について知りたい方は [SPORTS JAPAN PROJECT](#)